

平成29年度教育事業
幼児からの自然体験活動「あそべ!げんキッズ」



1. ねらい

- ・友だちと一緒に、活動する喜びや達成感を味わう。
- ・自ら考え自発的に遊ぶ。
- ・親子を対象に、身近な物を使った運動遊びを通してその楽しさを感じる。

2. 実施日

平成30年1月20日(土)

3. 対象

桜井市立三輪幼稚園(モデル園)

4. 参加者

176名(園児・保護者の合計)

5. プログラム(要約)

モデル園を対象に、「冬」をイメージした運動遊びのプログラムを行った。段ボール箱や新聞紙など、園児にとって身近な物を材料にし、幼児期に必要とされている動きを取り入れながら(※)、園や家庭でも簡単に出来る運動遊びを取り入れた。

※国立青少年教育振興機構「遊んで身に付く36の基本的な動き VOL.1」参照

スケジュール

- ・開会式
- ・親子体操
- ・レクリエーション(人数集め)
- ・運動遊び(10種類)
- ・閉会式

開会式後、帝塚山大学岡澤教授にご指導いただき、「親子体操」を行った。「アルプス一万尺」の曲のテンポに合わせて、早く動いたりゆっくり動いたりして、たくさん体を動かして楽しんだ。また、手に雪のイラストを描いたシールを貼り、親子でタッチをする「雪にタッチング」を行った。

次に、全員でレクリエーションを行った。「雪合戦」や「節分」など、冬にまつわる言葉の文字の数だけ集まる「人数集めゲーム」をし、集まったグループでトンネルくぐりをした。グループで工夫し、足を広げたり、四つん這いになったり、様々なトンネルの形を作っていた。



最後に、運動遊びを行った。キャタピラー、新聞キャッチ、段ボールだるま落としなど、10種類のコーナーを設け、親子で自由に回って楽しんだ。



6. まとめ

たくさんの種類の運動遊びを行い、親子で一緒に楽しみながら体を動かしていた。それぞれの運動遊びに、幼児期に必要とされている基本的な動きを取り入れ、身近な物を使って遊びながら身に付くように工夫したことで、家庭でも運動遊びを楽しもうとするきっかけになった。

これからも、運動遊びが好きになれるようなプログラムを提供したい。

(企画指導専門職 上田 考浩)

平成29年度教育事業
幼児からの自然体験活動「あそべ!げんキッズ」



1. ねらい

- ・自然にふれ発見したことや感じたことを表現する。
- ・友だちと一緒に、活動する喜びや達成感を味わう。
- ・自然の中で、体を動かすことの心地よさを感じる。
- ・自ら考え自発的に遊ぶ。

2. 実施日

平成29年11月6日(月)

3. 対象

桜井市立三輪幼稚園(モデル園)

4. 参加者

年長児 21名

5. プログラム(要約)

モデル園を対象に、亀山への登山を通して、秋の曾爾高原の豊かな自然環境の中、五感を使って自然と関わることで、新たな発見や気づきが得られ、曾爾での体験や経験が身近な自然との関わりにつながるプログラムを実施した。

スケジュール

- ・入所式
- ・登山(亀山)
- ・やまびこ体験
- ・昼食
- ・退所式

夏の宿泊保育で来所してから、4か月ぶりに自然の家にやって来た子どもたち。夏は、亀山峠の往復であったが、今回は亀山を一周するというので、やる気と不安が入り混じった表情をしていた。そにっくんが見送ってくれる中、「行ってきます!」と、元気いっぱい出発した。



出発してすぐ、きれいな穂を出したススキの様子に気づき、「うわー、きれいやな。前と全然ちがう」「めっちゃ背高い」と感嘆の声を上げていた。そして、夏と同様、お亀池前の大きな木からパワーをもらい、亀山を登り始めた。



山頂までの道は、狭くて急な上り坂や歩きにくい岩場があったが、手やおしりを使いながら安全に気をつけ、ゆっくりゆっくりと進んでいった。「こっちの道歩きやすいで」「がんばって」と、みんなで声を掛け合いながら、山頂に辿り着いた。山頂からの景色を見ながら、「こんなに登って来たんや」「夏は緑色やったのに、今は茶色や」と気持ちよさそうに話していた。すると、夏には会えなかった亀山に住む『亀仙人』が山の下に現れ、「かめせんに一ん」「ずっと見ててくれたんや」ととても喜んでた。

下山時、森の中を通ると、赤や黄色やオレンジ色に色づいた葉を見ることができた。「ぼくのお家の近くでも葉っぱ赤いで」「私も帰ったら探してみよう」と興味を持っていた。

自然の家に着いてから、改めて亀山を見ていると、「あんなところ登って来たんや」「がんばったな」と達成感を得ていた。

6. まとめ

夏と秋の曾爾高原や自然の様子を比べることで、これまで以上に自然への関心が高まった。四季によって表情を変える自然の様子に、不思議さや良さを感じることができた。また、登山を通して達成感を得ることで、自分自身に自信がついたり、友だちと一緒に活動する喜びや達成感を味わったりすることができた。

(企画指導専門職 上田 考浩)

平成29年度教育事業
幼児からの自然体験活動「あそべ！げんキッズ」



1. ねらい

- ・自然にふれ発見したことや感じたことを表現する。
- ・友だちと一緒に、活動する喜びや達成感を味わう。
- ・自然の中で、体を動かすことの心地よさを感じる。
- ・自ら考え自発的に遊ぶ。

2. 実施日

平成29年7月5日（水）～6日（木） 1泊2日

3. 対象

桜井市立三輪幼稚園（モデル園）

4. 参加者

年長児 21名

5. プログラム（要約）

モデル園を対象に、曾爾の豊かな自然の中で、登山などの自然体験活動や外遊びを通して、体を動かすことの楽しさや心地よさを感じることができるプログラムを実施した。

スケジュール

1日目

- ・入所式
- ・そにとピンゴ
- ・木のメダル作り
- ・キャンプファイアー

2日目

- ・登山（亀山峠）
- ・マイクロハイク
- ・退所式

【1日目】

天候が悪かったため、2日目とプログラムを入れ替え、初めに「そにとピンゴ」を行った。子どもたちは、広い館内をグループで楽しみながらまわり、目標の場所に辿り着くと、先生からスタンプを押してもらっていた。

次に、木のメダルを作った。マジックペンで自分の好きな絵や模様を描き、先生にひもをつけてもらい首にかけると、「宝物にしよう！」と嬉しそうに話していた。



夜は、キャンプファイアーを行った。火の女神様から点火してもらい、大きく燃え上がる火を見ながら、歌を歌ったりゲームをしたりして、とても楽しんでいました。

【2日目】

午前中、亀山登山を行った。出発する際、お亀池の前に1本だけ生えている大きな木からパワーをもらい、全員登頂することができた。亀山の上から見ると、「めっちゃきれいな緑色や。幼稚園の近くとは違うなあ」、「風で草がみんなゆれてる。ざわざわってしゃべってんねん」 「ぼくは、さらさらって聞こえるで」と、ススキの葉が揺れる美しい様子を感じていた。また、曾爾高原に住んでいるという「亀仙人」に会えるのを楽しみに登った子どもたちは、大きな声で名前を呼んでいた。無事に山を下りてきて、どの子も達成感を得ることができていた。



昼食後、「マイクロハイク」を行った。子どもたちは、虫眼鏡を使って小さな虫や花や草、木の表面など、興味があるものを自由に観察し、普段見れない世界にとっても驚いていた。

6. まとめ

曾爾の大自然を舞台に、登山やマイクロハイク、キャンプファイアーなどの活動を通して、ねらいを達成することができた。秋に再び来所し、夏とは様子が変わった曾爾高原の自然に出合った時、一体どのような表情を見せてくれるのか、とても楽しみである。

（企画指導専門職 上田 考浩）